

鷹取山自然観察会会報

2020.9.13 NO.29

鳥類調査の報告

はじめに

皆さんは、最近鳥のさえずりなど聞いたことがありますか。以前に比べて鳥の数が減ってきていませんか。

鳥が生息するためには餌場、ねぐらなど広い緑地が必要であり、緑地が減少すれば鳥の生息数に影響が出てくると思う。このため鳥類調査は自然環境を知るためのバロメーターになっていて、地域の環境を把握するためには継続的な調査が必要である。

当会では2014年から鳥類調査を開始し、比較的観察しやすい冬から春の繁殖期まで調査を行っていて、これまでの結果は会報8号、13号、17号、21号、25号で報告してきた。

1. 鳥類の生息について

鳥類には、年間を通して同じ場所に生息し、繁殖行動も見られるものを留鳥という。留鳥にはシジュウカラ、ヤマガラ、エナガ、コゲラ、スズメ、カラス類などがいる。

一方、日本国内で冬をあたたかい平地で過ごし、夏は近くの山の中に入る鳥を漂鳥という。おもな漂鳥には、ムクドリ、ヒヨドリ、ウグイスなどである。



また、通過鳥（渡り鳥）として夏鳥、冬鳥と呼ばれている。夏鳥としては、ツバメ、カッコウ、ホトトギスのように春に日本に来て繁殖し、繁殖が終わると南方に帰っていく鳥類をいう。冬鳥としてはジョウビタキ、シロハラ、ツグミなど日本より北の地方で繁殖し、冬に日本に渡来する鳥類をいう。

野鳥の生息環境は種によって違いがあり、山林、草原、田畑、水辺などですみ分けを行っている。鷹取山でよく見られるシジュウカラ、ヤマガラ、コゲラなどは山林を好み、ホオジロ、ツグミなどは草原を好むようである。

三浦半島は三方を海に囲まれ、中央部に標高200mの低山が連なり、照葉樹林や落葉樹が茂る緑多い地域である。

鷹取山には、水場はなく水辺に棲む鳥類はあまり見られない。草原や山林に生息する鳥類が中心で、以下調査結果を報告する。

2. 調査ルート及び調査頻度

調査は環境省自然環境局及び日本自然保護協会における「モニタリングサイト1000里地調査マニュアル」により、植生の違う4区間に分け

調査した。調査ルートは図のとおりである。2014 年から開始した調査であるが、2018 年に調査期間及び時間、調査区間の一部を変更した。また調査頻度などはマニュアルに従い、越冬期、繁殖期の 2 区分として行った。

図 鳥類調査ルート



- ① 越冬期：2019 年 12 月～2020 年 3 月の間 第 1、3 金曜日の 8 日間に実施した。
- ② 繁殖期：2020 年 5 月 22 日、6 月 9 日、26 日の 3 日間に実施した。

調査時間は越冬期 9 時 30 分開始、繁殖期は 6 時 30 分開始として、調査ルートを 1 往復した。調査ルートを歩きながら、目撃、鳴き声（地鳴き、さえずり）で種を判別し記録した。

東京新聞 2020 年 8 月 12 日

3. 調査結果

ここでは、2014～2020 年まで年別の調査結果を 3 ページの表に示した。

2019-20 年は全期間を通して 26 種を記録した。

また、2014 年から現在まで、記録できたものは累積で 44 種となっている。

2019-20 年の調査期間を通して数が多い鳥は、ヒヨドリ、メジロ、シジュウカラ、ウグイス、スズメ、コゲラ、アオジ、ガビチョウの順であり、これらはアオジを除き留鳥であった。2018-19 年に観察できなかったウソ、イソヒヨドリ、ヒレンジャクは 2019-20 年に観察できた。また、猛禽類のオオタカ、ノスリなどは観察できなかった。

我々の調査では経験不足のところもあり、これ

までも見逃した野鳥は多くあったと思われる。我々の調査では記録されていないが、夏鳥としてオオルリ、センダイムシクイ、冬鳥としてルリビタキ、ビンズイ、クロジなどの生息情報もある。また、住民の方からフクロウの鳴き声情報も寄せられている。

2019-20 年調査に参加した人（鷹取山自然観察会会員） 本多久男、中村紀雄、高橋和子、三科清高、市川實、伊沢昭司、板垣加代子、竹之下香苗、村上良二（順不同、敬称略）

横須賀の 2 団体 国交大臣表彰



鷹取山自然観察会が開いた観察会（鷹取山自然観察会提供）



水辺公園友の会が開いた、小学生らがカエルを観察して自然に触れる活動（水辺公園友の会提供）

地域の花や緑の保護と維持に功績があったとして、横須賀市で活動する「鷹取山自然観察会」と「水辺公園友の会」が「みどりの愛護」功労者国交大臣表彰を受けた。両団体の代表者が市役所を訪れ、上地克明市長に受賞を報告し、活動をまとめて四月に発行した冊子と、倒木で作った看板を市に寄贈した。

鷹取山（標高一三九〇）は横須賀市と逗子市の間にあり、昭和初期まで岩が採取されたため切り立った岩壁が特徴。鷹取山公園の周

水辺公園友の会が「最近では台風や大雪のために木が倒れ、処理に追われることが多い」と説明。倒木などを利用し、いすやベンチを作っているという。

市では来春、全国の公園や緑地の愛護団体が集まる「全国「みどりの愛護」のつどい」が開かれる。友の会は、市役所内に設置された実施本部事務局の木製看板を作り、寄贈した。（村松権主應）

みどりの愛護功労者



上地市長等に冊子を贈った鷹取山自然観察会の本多久さんと、木製看板を贈った水辺公園友の会の別府さん＝横須賀市役所で

辺で活動する観察会は、〇二三年に設立され、会員二十五人。毎月第二日曜日に一般向けの自然観察会をしている。

公園内やハイキングコースに野鳥保護の巣箱や樹木名などの板を設置し、四季の植物やチョウなどのポスターも掲示している。市役所を訪れた本多久男・世話人代表（左）は「市民に自然のことを知ってもらい、守ってほしい」と話し、生物の図鑑や調査結果を収録した冊子「鷹取山の自然」二十部を贈った。

水辺公園友の会は〇〇年に発足し、光の丘水辺公園（横須賀市光の丘）で活動している。会員約八十人で、公園管理者と協力し、池や湿地、樹林地の維持・管理や、植物や昆虫などの調査・保護をしている。来園者の案内や自然観察会などもしている。

表 年別調査結果

	科 名	種名	2014-15 年	2015-16 年	2016-17 年	2017-18 年	2018-19 年	2019-20 年
1	キジ目キジ科	コジュケイ	8(4/6)	8(4/6)	10(6/10)	24(7/11)	18(7/11)	10(6/11)
2	キツツキ科	アオゲラ	0	1(1/6)	2(2/10)	3(2/11)	8(3/11)	0
3		アカゲラ?	0	1(1/6)	0	0	0	0
4		コゲラ	9(5/6)	15(6/6)	21(8/10)	38(10/11)	43(8/11)	34(9/11)
5	スズメ目アトリ科	アカウソ	1(1/6)	0	0	0	0	0
6		ウソ	10(2/6)	2(1/6)	28(4/10)	12(3/11)	0	4(1/11)
7		シメ	0	0	5(2/10)	4(3/11)	4(2/11)	1(1/11)
8		カワラヒワ	2(1/6)	0	5(3/10)	2(1/11)	5(2/11)	0
9	スズメ目ウグイス科	ウグイス	13(5/6)	29(5/6)	31(9/10)	61(9/11)	89(9/11)	84(9/11)
10	スズメ目エナガ科	エナガ	3(1/6)	14(3/6)	11(4/10)	32(6/11)	21(3/11)	16(3/11)
11	スズメ目カラス科	ハシブトガラス	15(5/6)	10(5/6)	34(8/10)	58(10/11)	42(9/11)	26(8/11)
12		ハシボソガラス	3(1/6)	8(2/6)	5(2/10)	11(2/11)	4(3/11)	16(2/11)
13	スズメ目シジュウカラ科	シジュウカラ	14(6/6)	18(6/6)	25(7/10)	68(11/11)	65(9/11)	90(9/11)
14		ヤマガラ	1(1/6)	4(1/6)	8(3/10)	8(3/11)	17(6/11)	9(4/11)
15	スズメ目スズメ科	スズメ	41(6/6)	34(6/6)	87(10/10)	39(8/11)	113(9/11)	58(7/11)
16	スズメ目セキレイ科	ハクセキレイ	0	4(2/6)	6(4/10)	12(6/11)	1(1/11)	0
17		キセキレイ	0	0	0	1(1/11)	1(1/11)	0
18	スズメ目ツバメ科	ツバメ	0	1(1/6)	6(2/10)	19(3/11)	5(2/11)	17(3/11)
19		イワツバメ	0	0	3(1/10)	0	0	0
20	スズメ目ヒヨドリ科	ヒヨドリ	36(6/6)	66(6/6)	74(10/10)	162(10/11)	113(8/11)	160(11/11)
21	スズメ目ホオジロ科	アオジ	10(4/6)	2(2/6)	17(5/10)	31(7/11)	69(8/11)	34(8/11)
22		ホオジロ	2(2/6)	1(1/6)	15(7/10)	9(6/11)	6(4/11)	9(3/11)
24	スズメ目ムクドリ科	ムクドリ	8(3/6)	0	22(5/10)	43(3/11)	11(2/11)	3(2/11)
25	スズメ目メジロ科	メジロ	20(5/6)	42(5/6)	31(8/10)	169(11/11)	88(7/11)	103(10/11)
26	スズメ目チメドリ科	ガビチョウ	1(1/6)	7(3/6)	6(4/10)	16(6/11)	30(5/11)	28(4/11)
27	スズメ目ツグミ科	アカハラ	0	2(2/6)	0	0	0	0
28		イソヒヨドリ	0	1(1/6)	0	1(1/11)	0	1(1/11)
29		シロハラ	3(3/6)	0	2(2/10)	3(3/11)	1(1/11)	1(1/11)
30		ツグミ	3(3/6)	0	4(2/10)	7(3/11)	0	0
31		トラツグミ	0	0	0	1(1/11)	0	0
32		大型ツグミ類	0	2(2/6)	1(1/10)	0	0	0
33	スズメ目ヒタキ科	キビタキ	0	1(1/6)	0	0	0	0
34		ジョウビタキ	1(1/6)	1(1/6)	3(2/10)	6(4/11)	2(2/11)	16(5/11)
35	スズメ目モズ科	モズ	1(1/6)	3(2/6)	0	4(4/11)	2(1/11)	0
36	スズメ目レンジャク科	ヒレンジャク	13(1/6)	0	0	1(1/11)	0	20(1/11)
37	タカ目タカ科	オオタカ	0	1(1/6)	0	0	0	0
38		トビ	5(3/6)	8(4/6)	29(10/10)	29(10/11)	21(8/11)	27(8/11)
39		ノスリ	0	1(1/6)	3(2/10)	1(1/11)	3(3/11)	0
40	ハト目ハト科	キジバト	7(3/6)	4(3/6)	10(6/10)	9(3/11)	6(4/11)	2(1/11)
41		ドバト	3(2/6)	2(2/6)	7(1/10)	9(3/11)	0	17(4/11)
42	ハヤブサ目ハヤブサ科	チョウゲンボウ	0	0	0	1(1/11)	0	0
43		ハヤブサ	0	0	0	1(1/11)	0	0
44	カッコウ目カッコウ科	ホトトギス	0	0	0	1(1/11)	0	0
個体数			233	289	512	896	792	794
種数			26	30	30	36	27	26

注 カッコ内数値 (n/11) は、種の確認回数/観察日数

セミの抜け殻調査について —2020 年調査報告—

セミは夏の風物詩で、鷹取山周辺では例年、7月上旬からニイニゼミが鳴き始め、梅雨が明ける頃にはアブラゼミ、ミンミンゼミの大きな鳴き声が響き、ツクツクボウシは秋まで鳴き続ける。朝夕はヒグラシの声も楽しめる。セミの生活史は夏に交尾して雌は枯れ木に卵を産み付ける。卵から孵った幼虫は地中で脱皮を繰り返し大きくなっていく。セミは1～5年ほど地中で過ごし、終令の幼虫は生息場所からあまり移動せずに夜間に地上に出て羽化して成虫となる。成虫は1週間から1か月程生き、雄は交尾の相手を見つけるために大きな声で鳴く。セミは樹林性の昆虫であり、セミの抜け殻調査は全国的に行われていて、その結果は自然環境のバロメーターとなっている。2020年も、鷹取山周辺で5年目となるセミの抜け殻調査を行った。

1. 調査方法

7月24日と8月28日の2回、鷹取山の観察路を鷹取山公園から田浦に向かって歩きながら木や草に付いている抜け殻を採取して調べた（調査区間図参照）。種の同定は会報13号（7頁）の方法により確認した。

2. 調査結果

調査結果は、表1、表2に示した。今年の7月末の調査では、セミの鳴き声は聞こえていたものの抜け殻がほとんど見つからず、ニイニゼミが1、アブラゼミが2、ヒグラシが1という結果であった。今年の梅雨明けは8月1日で例年より11日も遅かったために、調査が梅雨の最中となってしまったことも、抜け殻が見つからなかった要因と思われる。8月の調査まで含めても抜け殻は例年より少なく、内訳も、アブラゼミが26.9%、ミンミンゼミが47.4%、ニイニゼミが6.4%、ツクツクボウシが17.9%、

ヒグラシが1.3%となり、例年とは異なる結果となった。今年は9月に入ってもニイニゼミの声が聞こえ、セミの羽化の状況は例年とは異なっているように思われる。また、抜け殻は採取されなかったが、クマゼミの鳴き声は毎年増えているので、数年後には、鷹取山でもクマゼミが羽化し、抜け殻が見られるようになるかもしれない。5年間の調査結果全体をグラフで見ると、今年は別にして、鷹取山のセミは、7月はニイニゼミ、8月はアブラゼミとミンミンゼミが優占種となっていることがわかる。

セミの幼虫は複数年を地中で過ごすため、羽化の状況を把握する抜け殻調査には、複数年にわたる気候の変動などの環境変化が反映されることになる。そのため、毎年の調査を積み重ねることが大切であると考えられる。また、調査の精度を高めるためには、難しいが、調査回数を増やすことも望ましい。

3. その他

全国的には「セミの抜け殻しらべ市民ネット」や日本自然保護協会などで調査が行われている。市民ネットなどの調査では調査範囲を決めて毎年3回程度継続的に続けることとなっている。鷹取山でも継続的に調査ができればセミの変化がわかると思われる。クマゼミは、以前は城ヶ島が北限とされていたが、近年鷹取山及びその周辺でも鳴き声が増えている。今年のセミの抜け殻調査は、例年とは異なる異常な結果となったが、それだけに、翌年以降も調査を継続していきたい。

2020 年調査に参加した人（鷹取山自然観察会会員）

本多久男、伊沢昭司、市川寛、北村一男、三科清高（順不同、敬称略）

セミの抜け殻調査 調査区間図



ニイニゼミ 2020/7/26 鷹取山

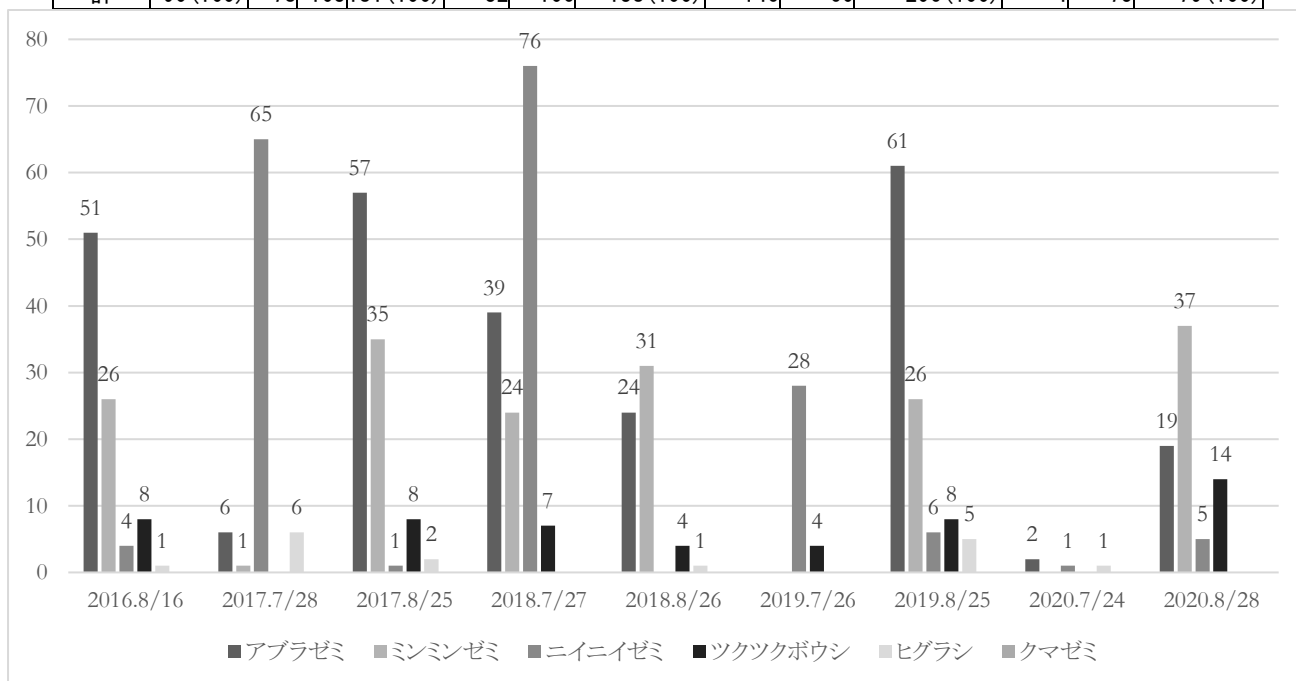


表1 セミの抜け殻調査結果（2020年 鷹取山で鳴き声が聞こえる6種）

種類 調査区間→	2020/07/24					2020/08/28					2020 計				
	A	D	E	F	計(%)	A	D	E	F	計(%)	A	D	E	F	計(%)
アブラゼミ	2				2(50)	9	7		3	19(25.3)	11	7		3	21(26.6)
ミンミンゼミ						26	8		3	37(49.3)	26	8		3	37(46.8)
ニイニイゼミ		1			1(25)		1	3	1	5(6.7)		2	3	1	6(7.6)
ツクツクボウシ						1	1		12	14(18.7)	1	1		12	14(17.7)
ヒグラシ	1				1(25)						1				1(1.3)
クマゼミ															
計	3	1			4(100)	36	17	3	19	75(100)	39	18	3	19	79(100)

表2 セミの抜け殻調査結果（2016年～2020年）

年	2016 年		2017 年		2018 年			2019 年			2020 年		
月/日	8/16	7/28	8/25	計 (%)	7/26	8/25	計 (%)	7/27	8/26	計 (%)	7/24	8/28	計 (%)
アブラ	51 (59.7)	6	57	63 (34.8)		61	61 (44.2)	39	24	63 (30.6)	2	19	21 (26.6)
ミンミン	26 (28.9)	1	35	36 (19.9)		26	26 (18.8)	24	31	55 (26.7)		37	37 (46.8)
ニイニイ	4 (4.4)	65	166	36 (5.5)	28	26	34 (24.6)	76		76 (36.9)	1	5	6 (7.6)
ツクツク	8 (8.9)		8	8 (4.4)	4	8	12 (8.7)	7	4	11 (5.3)		14	14 (17.7)
ヒグラシ	1 (1.1)	6	2	8 (4.4)		5	5 (3.6)		1	1 (0.5)	1		1 (1.3)
クマゼミ													
計	90 (100)	78	103	181 (100)	32	106	138 (100)	146	60	206 (100)	4	75	79 (100)



コナラの立枯れ被害

はじめに

今年に入って鷹取山周辺ではコナラの立枯れが目立って増えている。神奈川県では2017年に初めて箱根町湯本や三浦市小網代、等で被害が確認され、以降、被害は拡大している。

ここでは鷹取山の被害状況について報告するとともに、コナラの立枯れの原因と対策について、国、県の資料などにより紹介する。

1 枯れる原因



観察路から船越側を望む

一般社団法人 日本森林技術協会の資料によれば、コナラが枯れる原因は、甲虫のカシナガキクイムシ（カシナガともいう。）体長 5 mm 程度が穿入（せんいゆう）し、ナラ枯れが起こる。カシナガの生態とナラ類が枯死に至るまでの流れを図 1 に示す。カシナガの被害を受けたナラ類は紅葉前の 7～8 月に赤く変色を始めることが特徴である。カシナガに集中的に穿入した樹木は、ナラ菌の作用により辺材部の通水機能を失い、急速に葉の色が赤褐色に変色し、枯死する。ナラ枯れによく



大量のフラス



カシナガの成虫

神奈川県自然環境保全センター

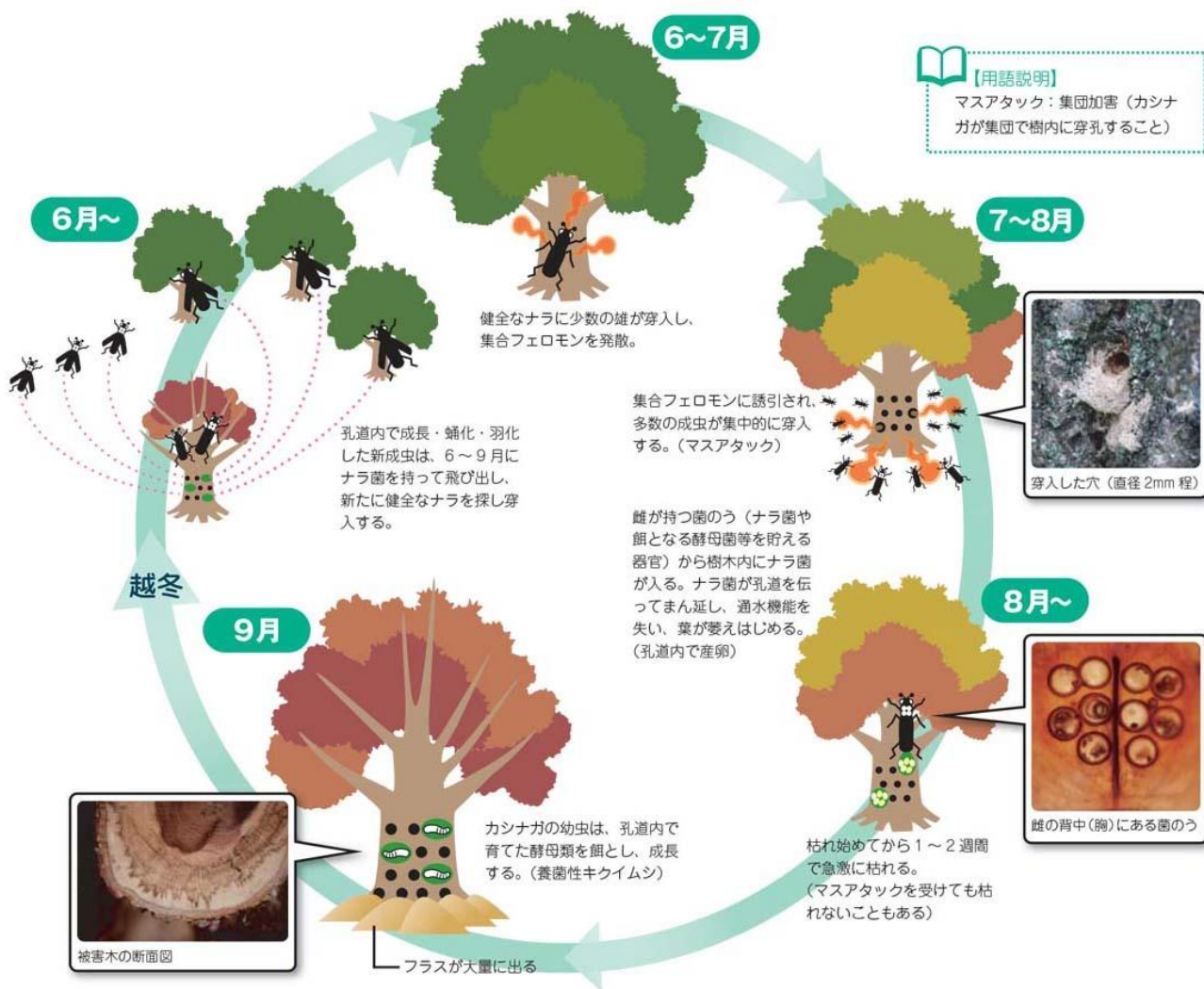


図1 カシナガキクイムシの生活環

見られる特徴として、幹には直径 1.5～2.0 mm の多くの孔が見られ、幹の根元に大量のフラス（木屑と虫の排泄物が混ざった粉状のもの）がたまっていく。

ナラ枯れは、最初に何本か枯れ、翌年にはその周辺の 10～100 本が枯れる。さらに次年以降も被害を重ね、次第（5～10 年くらい）に終息する。カシナガに穿入された木のうち、枯死した割合はコナラでは 20～30% 程度である。一般

的に太い木ほど穿入されやすく、枯死しやすい。カシナガ（新成虫）は、脱出木の近くにある木に入り、被害を広める。前年の被害木に近い木ほど被害を受けやすい。

2 鷹取山の被害状況

鷹取山でも、今年に入って葉が枯れているコナラが目立っている。2020 年 8 月 11～12 日に観察路を歩きながら、樹種、幹回り（根本から



130cm の高さ)、葉の状態、フラスの有無などを確認した。

その結果は図 2 のとおりであり、観察路では 52 本が被害を受けていた。葉が枯れていないものもあったが、フラスが出ているものは被害木とした。52 本のうち 32 本は葉が全部枯れていた。また、11 本は葉の半分程度が枯れていた。9 本は枯れていないが根本にフラスが見られた。

被害木の幹回りは平均 122cm、最小 70cm、最大 220cm であった。（ただし、株立ちは除く。）

特に被害の多い箇所は、図 2 から判るように、A 区間の東側斜面、E 区間であった。今回、一般の人が歩ける観察路を調査したが、人が立入れない場所でもコナラの立枯れが観察できることから、被害は広範囲であると考えられる。

3 対策

被害の広がりを食い止めるには、早期発見や初期対応が重要になるため、神奈川県では実態把握を続けるとともに、薬剤注入や伐倒くん蒸などの防除事業に対する市町村への補助をしているようだ。

対策には予防と駆除の 2 つがあり一般社団法人 日本森林技術協会「ナラ枯れ被害対策マニュアル」に詳しく書かれている。ここでは簡単に解説する。

(1) 予防

① ビニール被覆

健全木への
カシナガの侵
入を防ぐた
め、粘着剤等
の塗布または
ビニールシー
トの被覆を
実施（秋～



保護したい健全木に、あらかじめ殺菌剤を注入しておくことで、カシナガが穿入しても、材内でのナラ菌の繁殖を抑止する。

(2) 驅除

① カシナガトラップ法

被害木周辺の健全木をおとり木として、写真のようなトラップを設置し、集合フェロモンを発散させ、誘引された他のカシナガを大量に捕獲し被害を予防する。カシナガトラップは、ペットボトルを加工して手作りで作成して設置するものと、専用のトラップを購入して設置する手段がある。ペットボトルは低コストだがメンテナンスに労力が必要で、専用トラップに比べ



日本森林技術協会資料より

て捕獲数も少ない。一方、専用トラップは捕獲数が多く効果的であるが、購入コストが高く、木1本あたり約2万円の費用がかかる。

② 立木くん蒸等

被害木内のカシナガを駆除するため、羽化脱出前に薬剤によるくん蒸または焼却、破砕を実施（秋～春）する方法がある。立木のまま樹幹にドリルで注入孔を開けて殺虫・殺菌剤（カーバム剤）を注入し、カシナガとナラ菌の両方を殺虫殺菌する。この方法では被害木は燻蒸により再生はしない。処理に係る費用は相当かかると思われる。

4 感想

今回、コナラの被害の発見で横須賀三浦地域県政総合センター地域農政推進課へ通報した。2日後には県の担当者が現地に確認調査に来て

くれた。対応の早さに感謝したい。鷹取山の被害状況については県を通じて、横須賀市へ通報されている。

ナラ枯れが日本全国で拡大している大きな要因の一つは、コナラなど薪炭材の利用が行われていないため、大木となりカシナガによる被害が拡大している。鷹取山周辺では昭和30年以降ほとんど手つかずの状態である。若いコナラの木は、カシナガによる被害は見られないことから、ナラ枯れを防ぐ一番の方法は、コナラなどの積極的な利用による萌芽更新の促進であるとされている。

ナラ枯れの被害は1990年代から日本海側から始まり、三浦半島で被害が確認されたのは最近である。ナラ枯れ被害の調査研究など数多くの知見があり、ボランティアとして取り組んだ事例などもホームページなどで紹介されている。対策の主体は県や市であるが、市民団体ができることがあれば支援していきたい。鷹取山には、民地も多く被害も見られる。この地域でカシナガの被害が終息するには5～10年かかるかもしれない。被害を最低限にして対策を進めることを期待したい。（本多久男、伊沢昭司）

お知らせ

かながわトラストみどり財団のふれあい緑化事業に応募

かながわトラストみどり財団の助成金に応募し、鷹取山公園の一部地域（9ページ図の場所）アオキ林の一部を伐採しコナラ、クヌギ及びガマズミ、マユミなどの中低木を植栽する計画しています。具体的な活動について横須賀市公園管理課の了解済みです。受託できれば、10月頃から作業開始します。賛同できる方はご協力ください。

申請額 約10万円

第12回『関東・水と緑のネットワーク』の助成に応募

財団法人日本生態系協会が主催する「関東・水と緑のネットワーク」は、これからの関東地域における、身近な地域にある風景や自然、そしてこれらと人とのかかわり・つながりを考え、その意義を広く伝えていくことを目指しています。この取り組みを通じて、生物多様性の保全・再生に資する活動を支援し、これからの地域のあり方を考えていくとともに、環境学習の場づくりなどを進めていきます。今回、当会は

拠点づくりに応募しましたのでお知らせします。結果の通知は9月中旬の予定。

A. 拠点づくり

関東地域の水辺と緑地のネットワークの拠点となる身近な水辺や緑地を保全・再生し、周辺の自然とのつながりを回復する取り組みに対する助成です。

助成額：30万円

申請は、従来の活動を行うための消耗品類（貴重種保護のための焼杭、背負子、樹木プレート用スプリング、掛矢、脚立など）、新たに鷹取山の自然保護について啓発用リーフレットの作成費を当てています。

環境教育指導者等派遣事業に

登録

横須賀市では環境活動や環境の取り組みを行っている市民活動団体・市内企業・専門的知識や経験を有する市民ボランティア等を「環境教育指導者」として、市内の小中学校をはじめとする環境教育の場（町内会・自治会など）へ派遣する事業です。

今回、横須賀市環境企画課から依頼があり、



登録しました。鷹取小学校、自治会などから自然観察会の要請があれば、横須賀市を通して行くことができます。その際はよろしくお願いします。詳細は横須賀市環境企画課HPをご覧ください。

神奈川新聞 2020 年 8 月 8 日

本多さん(左から3人目)ら会員でまとめた冊子「鷹取山の自然」



鷹取山公園の自然紹介 「観察会」調査記録、冊子発行



横須賀市の鷹取山公園(同市湘南鷹取)や周辺で里山づくりの活動を行う「鷹取山自然観察会」が、2013年からの調査記録をまとめた「鷹取山の自然」を発行した。同公園などの動植物や昆虫を写真やイラストで解説、地域の自然の実態が分かる貴重な1冊だ。同会は13年に設立。世話人代表の本多久男さん(72)ら約30人の会員が、生き物調査や、誰でも参加できる毎月1回の自然観察会を行っている。公園内の自然保護活動にも携わり、20年の「みどりの愛護功労者国土交通大臣表彰を受賞した。冊子はオールカラーで、鷹取山に生息している植物約700種、チョウ約50種などを主に会員が撮影した写真で紹介。それぞれの特徴や生態も詳しく記され、ハイキングなどでも活用できる。さらに、19年までの動植物・昆虫の生息状況や緑地の現状などを調査した記録も記載した。

本多さんは「鷹取山のように住宅街に囲まれた緑は貴重。冊子を通して関心を持ってもらい、将来もこの環境が残ることにつながれば」と話す。

「鷹取山の自然」は1部2千円。問い合わせは、観察会のメール takatori_0721@nifty.com (尹 貴淑)

鷹取山周辺で見られるバッタ

秋口に鷹取山山頂下に広がる原っぱを歩くと、たくさんのバッタが足元から飛び立ちます。飛ぶときに広がる翅に同心円の模様があり、黄色っぽい色をしていたら、それはきっとクルマバッタです。翅の色が白っぽかったら、クルマバッタモドキかもしれません。翅に模様

が無いのは、多分、キチキチバッタ(ショウリョウバッタの雄)です。

バッタの多い広い草地は、今では貴重な存在です。鷹取山周辺には、住宅地の斜面や公園にも草地があり、バッタが見られます。バッタは土中に卵を産むため、過度の草刈りが行われなけ

れば、生き延びることができます。その他にも鷹取山周辺では、林縁に棲むバッタも見られます。バッタ採りに興じる子供たちが見られなくなったのは、少し淋しい気がします。バッタは蛹にならないので、翅が短いだけで、幼虫は親

と同じ姿かたちをしています。草原を探せば、初夏からバッタの幼虫を見つけることができます。成虫で越冬するツチイナゴなどは例外です。鷹取山周辺で見られるバッタを、いくつか紹介します。(三科清高)

ク ル マ バ ッ タ  雄 35～45 ミリ 雌 55～65 ミリ 草原に棲む 本州では7～11月に成虫 前胸背の正中はアーチ状	ク ル マ バ ッ タ モ ド キ  雄 32～45 ミリ 雌 55～65 ミリ 裸地や明るい草地に普通 7～11月に成虫 前胸背にX状の斑紋	シ ョ ウ リ ヨ ウ バ ッ タ  雄 40～50 ミリ 雌 75～80 ミリ 明るい草地に普通 本州では8～11月に成虫 頭は円錐形にとがる
オ ン ブ バ ッ タ  雄 20～25 ミリ 雌 40～42 ミリ 背の低い草地に普通 秋に成虫 緑色型と褐色型がある	ツ チ イ ナ ゴ  雄 50～55 ミリ 雌 50～70 ミリ 深い草地やマント群落に普通 本州では秋に羽化し成虫越冬 眼の縦じまが涙目のよう	イ ボ バ ッ タ  雄約 24 ミリ 雌約 35 ミリ 裸地や石垣などに普通 7～11月に成虫 前胸背の正中にはイボ状の凹凸
ト ノ サ マ バ ッ タ  雄 35～40 ミリ 雌 45～65 ミリ 裸地や明るい草地に棲む 6～11月に成虫 緑色や褐色など色彩変異	コ バ ネ ヒ シ バ ッ タ  雄 9.8～10.5 ミリ 雌 11.3～12.3 ミリ 林内や林縁の落ち葉の上に棲む 幼虫または成虫越冬 翅は退化して見えない	タ ン ザ ワ フ キ バ ッ タ  雄 20～23 ミリ 雌 26～29 ミリ 林縁に棲む 夏～秋に成虫 地域変異が多い

鷹取山自然観察会（ホームページを見て下さい）

HP：鷹取山自然観察会

<http://takatori.yama.eco.coocan.jp/>

連絡先：世話人代表：本多久男 e-mail：takatori_0721@nifty.com